

## 博物館に来て

道央の空知から釧路に越してきてはや45年。その頃はまだ小学生で、こちらはトンボなどの昆虫が少なく、真夏の陽炎も見られずに少し寂しい思いをしました。

親に連れられて鶴ヶ岱公園でボート遊びをし、薄暗い室内でガラスケースに入った標本を恐る恐る見た博物館の記憶が残っております。

その後は、十数年ぶりに現在の博物館を職員研修で訪れました。独特の展示ディスプレイ、当時斬新だったBGM、タンチョウドームに感激し、夏場だったせいもありラセン階段を汗だくになり見学しました。

つぎは2人の子どもを連れての

来館。動物たちのはく製、湿原のシオラマに目を輝かせて見学しておりました。

月日が流れ、本年4月1日付で博物館勤務を命じられ約15年ぶりの再会となりました。学芸員の中に夢を叶えた同級生がいたこともあって勤務の緊張も和らぎました。

釧路を代表する建築家毛綱毅曠氏の設計による博物館に勤務できる喜びもつかの間で、築30年を超える館の修繕に追われる毎日でございます(笑)。

学芸員の調査研究活動、市民との協働活動、研究機関との研究活動等、少年少女のように純な眼差しで取り組む姿を目の当たりにし、事務方として、どのように博物館

活動を支えてゆけば良いのか考える毎日です。

近々の運営・修繕計画、将来を見据えた博物館の長期計画策定等お手伝い出来ればと思っております。

近年は、釧路市民はもとより、本州・海外からの観光客の皆様が増えており、お客様からの「展示が素晴らしく感激しました」との声をたくさんお聞きしており、大変嬉しくありがたいですね。

もっとたくさんの方々に来ていただくために、職員一同で色々な取り組みを行い、模索もしております。

市民の宝である釧路市立博物館に勤務できて大変幸せに思っております。

(齊藤 武)

## 釧路の岩石海岸

年に何度か、化石産地や地形を観察するのに適した場所がないかとの問い合わせを受けることがあります。特に夏休みになると自由研究の題材にするのか、小学生からの化石採集場所の質問が特に多くなるようです。

釧路市は南側で太平洋に面し、釧路川河口から東の根室まで、岩石海岸が続いています。これら岩石海岸の崖面には、地層が綺麗にあらわれ、絶好の観察場所となっている所や化石採集に適した場所も多いのです。

市内興津の海岸では、釧路市の文化財に指定されている、春採太郎が見られます。これは海岸に面した崖面に露出している大きな砂岩脈です。このような砂岩脈は、釧路地



方では知人岬から厚岸湾までの海岸に大小百本以上があるとされています。それら岩脈の厚さは、だいたい10cm以下で1mを超えるものはほとんど見られません。しかしこの春採太郎は、幅約4m、陸地と海底を合わせた延長が数km、上下方向300mに及ぶ日本一の規模となっているのです。しかし、海岸沿いを10分程歩かなくてはならず、いつでも簡単に見ることはできません。波の穏やかな時の干潮をめぐって行かないと、雄大な砂岩脈を見ることは出来ないのです。

春採太郎より約2kmほど東の岩見浜海岸では、石炭層が露出しています。ここは安政3年(1856年)に

江戸幕府が試験的に採掘した採炭地としても知られています。その後、開拓使によって道内の地質調査が行われましたが、明治6年(1873年)に榎本武揚が、同7年には開拓使の招きで来日したライマンによりそれぞれ地質調査が行われています。

これら二箇所の海岸は、地形観察にとっても適した場所ですが、化石採集を目的とするなら、釧路町の昆布森海岸がいいでしょう。ここも干潮をめぐって行かないと歩けません。昆布森から釧路側に向かって10分程度歩いていくと、海岸の岩石や崖面の岩肌に化石が包含されているのがよく見られます。それらを見つけたらハンマーとタガネで取り出します。ここでは約3,800万年前のカキやシジミ、キンギョガイなどの貝化石が採集できるのです。

(山代淳一)